

# 白石市

～もうひとつの白石を訪ねる～

二人の通う学校の生徒数は、小原中学校が25人、南中学校が61人。校長先生から学校の紹介を受け、東白石中学校の生徒数を聞くと、その多さに二人は顔を見合わせ、と

「第39回白石区中学生の主張発表会」の特別発表者として来札しました。発表会に先立ち、東白石中学校を訪ね、生徒たちと交流をしました。

昨年10月17日、白石市の弁論大会優秀者の齋藤佳奈子さん（小原中学校3年）と大槻千恵さん（南中学校3年）が

## 白石市から中学生を迎えて

これは、地域のまちづくり積極的に取り組んでいる有志団体「白石区ふるさと会」が、白石市の「札幌白石親交会」と同市の協力を受けて実施している交流事業です。

「白石区中学生の主張発表会」に毎年招いて主張を披露してもらっているほか、同発表会の優秀者が白石市を訪ね、地元の中学生と交流を深めています。



▲生徒会役員との交流

でも驚いた様子でした。給食の時間には、多くの生徒に囲まれて教室で昼食を食べ、楽しくおしゃべりをして交流を深めていました。昼休みには、生徒に誘われて体育館でバスケットボールを楽しみ「こんなにたくさんの人と遊ぶのは初めて。びっくりした」と笑顔で話していました。



▲3年5組の教室にて  
右から、大槻さん、齋藤さん

「第39回白石区中学生の主張発表会」3年生の部で最優秀賞を受賞した浮島美緒さん（北白石中学校）と優秀賞を受賞した山谷理沙さん（日章中学校）が昨年11月14日と15日の両日、白石市を訪ね、市内の中学生と交流を深めました。市街地から車で約15分。交

## 白石市を訪ねて



▲特別発表をする大槻さん

その後の生徒会役員との交流では、自分たちの住む街を紹介し合ったほか、学校生活やスポーツの話で盛り上がりました。翌日に開かれた「白石区中学生の主張発表会」では、二人が感情豊かに主張を披露。来場者からは盛大な拍手が送られました。

また、二人は主張を披露。感動した生徒が目を見まわす姿も見られました。交流会を終えて、浮島さん



▲主張を披露する浮島さん

交流会が行われた小原中学校は、蔵王連峰を源流とする白石川の渓谷沿いにあります。交流会には、併設されている小学校の児童や地域住民も参加。小原中学校の生徒が積極的に二人に話し掛け、笑顔でゲームを楽しみました。



▲ゲームをして楽しむ山谷さん

は「初め緊張したけど、そんな心配がいらぬくらいみんな優しくなった。生徒同士も学年に関係なく名前呼び合っていて、本当にみんな仲良しなんだと感じた。通ってみたいくなる学校」と話していました。

## その他の主な交流

- 区内の小中学校では、白石市から伝統工芸品「弥治郎こけし」（次頁参照）の提供を受けて、児童が絵付け体験をしています。
- 札幌市立白石中学校では、昭和43年に白石市立白石中学校と姉妹校提携を結び、定期的に生徒同士の交流を行っています。
- JR北海道の白石駅とJR東日本の白石駅は、昭和45年に姉妹駅として提携。平成15年には、JR北海道の白石駅の開駅100周年を記念して114人の白石区民らが白石市を訪ね、市民との交流を深めました。
- 「白石区ふるさとまつり」には、白石市長が訪れ、物産の紹介や販売などを行っています。

